

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

May 2017

## 十勝のさくら

十勝もやっと暖かくなりました。とはいっても今朝はまだ3℃。パリッとしていますね。日中は東京と変わらずの20℃近くになり、連休予報は何と29℃の真夏日。道外では桜は散り葉桜・新緑の世界でしょうが、帯広はやっとちらほら咲き始めました。こちらの桜はエゾ山桜。花と共に葉っぱも一緒に出てくるので、ソメイヨシノの艶やかさには薄れます。でも桜はサクラ。やっとあの冬の呪縛から解放された気がしますね。スイセン、チューリップも咲き誇り庭も色づき始めました。

春の訪れと共に去る者もいます。「クワークワー」と朝散歩中に天も抜ける青空から鳴き声が聞こえてきました。見上げると白鳥の大群が北を目指して飛んでいました。数えたら50羽、正に「へ」の字、感動です。なんとウグイスも早々鳴き出しました。道道では朝早くからトラクターとすれ違います。農作業の開始です。



## 活動のお知らせ

- 2月13日(月) 神戸大学 日本産肉研究会(会長/松崎弘前大教授) 第19回学術集会参加 「放牧牛とその活用の再発見」  
 4月12日(水) 札幌 北海道酪農畜産協会 北海道短角牛振興協議会総会  
 4月14日(金) 札幌 北海道酪農畜産協会 出席  
 北海道肉専用種枝肉共励会実行委員会 11月9日(木)開催  
 北海道 Angus 牛振興協議会総会 知床興農ファーム加入。登録推進  
 4月20日(金) ホテルグランテラス帯広 北海道オーガニックビーフ振興協議会設立総会&記念シンポジウム  
 6月 3日(土) ホテルグランテラス帯広 10:00~13:30  
 第18回定期総会&肉牛飼養技術研修会 「道産牛のおいしさについて」 大井幹記氏  
 e-ビーフ試食・意見交換会



## NEWSばか読み

- 厚生労働省 健康と畜牛のBSE検査を廃止 4/1: やっと時代が元に復帰
- 地域研究所 過疎自治体の4割で30代女性が増える 4/5: これぞ地方創生
- 政府 ジビエ拡大に対策会議 4/5: 畜産でもっとやる事が...
- 農林水産省 JAS法改正 生産方法、流通、機能性等含む 4/5: GAP想定
- 農研機構 機能性農作物に拡大支援 4/6: こだわり生産に
- 生涯未婚率 男性4人に一人、女性6人に一人過去最高 4/6: 仲人復活宣言
- 米国産原油 最大の輸入国が中国 4/7: バランス貿易
- ローソン 水だけ育つ簡易野菜栽培キットが販売好調 4/7: 食育原点
- アパレル業界 ICタグで販売在庫管理推進 4/7: IOT進むよ
- カルビーポテト 昨年の不作の影響でポテト販売中止 4/11: 急に食べたいな
- イオン 食肉加工ロボで精肉パック盛り付け開始  
4/11: 機械化どこまで進むか
- 島根県 水田で和牛「お試し放牧牛バンク制度」創設  
4/11: 仕掛けとして興味有
- 日本飼養標準 乳牛編10年ぶりに改定4/11: 牛の進化に追い付くか
- 日本蹄蹄協会 乳牛の35%に蹄病発生4/12: 足元から
- WTO世界貿易額4年ぶりに米国首位中国2位に転落  
4/13: トランプ効果はやいな
- Jミルク 17年度事業で豪州から乳牛960頭輸入 4/13: スズメの涙
- 十勝畜産統計16年度年間乳量2.8%増1戸当102頭飼養 4/13: 集約化進む
- バイオガスプラント50戸倍増ロボット搾乳16%増 4/13: 酪農集約化

- 国会 種子法廃止法案可決 4/14: 商取引との関わり方
- 総務省 16年度総人口対30万人減少 東京首都圏一極集中進む  
4/15: 地方格差
- 消費庁 乳児はちみつ事故で一斉点検 4/15: ヤバい初めて知った
- ペットフード15年で1.2倍に拡大、産地のこだわり国産が購入ポイント  
4/17: 人より
- 日本公庫 17年度の畜産設備投資意欲高い傾向 4/17: 畜産の資金需要進む
- 16年度生乳生産対昨1%減705万t最低水準 4/18: 止まらず
- 内閣府 豆腐の常温流通販売の認可検討 4/19: 包装資材等進化
- タカナシ乳業 今秋冷凍牛乳を全国販売予定 4/20: 流通も変わる
- 農林水産省 東京オリパラまでGPA取得に補助継続 4/22: 取得率低迷
- 家畜改良事業団 気象データを牛群検定に応用 4/22: 農業はお天道様
- 全酪連 乳牛預託で都府県から予約殺到 4/24: 初任牛90万円ではね
- 兵庫県 対米型と畜場完成「神戸牛」の本格出荷へ  
4/24: 世界に羽ばたくGIブランド
- 消費者庁 GM(遺伝子組み換え)食品表示の厳格化へ 4/25: 重要な判断
- JA全農 段ボール箱の規格集約化でパレット輸送の効率化 4/26: 流通が命綱
- スーパー各社 GW商戦に焼肉の多彩な商品化 4/26: お肉ブームは続く
- 道総研林産試験場 シラカバ、柳など樹木の粗飼料化で研究開始  
4/26: 繊維に注目
- 農林水産省 酪農家の6次化取組急増 4/27: 流通も含め指導必要
- 農林水産省 豪州への牛エキス(食品加工品含む)輸出解禁 4/28:
- JR貨物 鉄道事業で初の黒字4/29: 流通方法の再見直し

## 東京直近NEWS (4/29 Shi-REPORT)

**ホルス** 4月枝相場は上げ基調で推移。産地の相対取引価格は建値あるが、集荷競争でプレミアム単価。

販売は、切落し赤身需要で引き合いは引き続き強い状況。4月は花見・入学など後半はGWに向けての需要拡大で相場上昇を予測。パーツは、季節的にパラ系の引き合いが徐々に活気出てきているが、逆に上位部位のロイン系が鈍く余剰傾向、スネもシーズンオフから評価価格の下落。産地では、ホルス頭数の縮小傾向継続から余剰パーツは冷凍規格に製造切り替えて先の販売在庫として確保している模様。

**経産牛** 市場相場は上げ基調継続。ピークは越えた様子も平均的高値に張り付いており、頭数の少なさを反映した相場とみる。販売面は牛正肉動き変わらず、価格次第も輸入に押されている現実。パーツロイン系は慢性的に不足状況で赤身部位はさらにヒートしており、需要の上昇と頭数の減少からモモ系特にウチモモは欠品。挽き材の流通相場は下げ基調だったが、枝相場の上昇から初夏の時期に価格見直し可能性あり。

## 左先生の畜産学研究NEWS

「柳緑花紅」という言葉は茶道では、今の自分と違うものになりたいと努力しながらいち「柳は紅になれない、花は緑になれない」ように定めが予め決まっているとの解釈です。しかし色彩は多少異なりますが畜産の世界では動物の筋肉が赤から緑に変化することは知られています。目に見える現象はその質と解釈・評価によって変わります。米抜きのTPP11に問われる日本の経済交渉能力や一向に解決しない拉致問題や北朝鮮の核戦力強化が世界の緊張を呼ぶという現象に日本の政治が平和な国民生活を守りつつ、世界への出番として何を発信するのか、まさに日本国民の選んだ政治の対応が問われています。e-びーふNews41号の学術情報は「畜産システム研究会報」等で、時系列的には以下の通りです。

### 1. 畜産システム研究会報#40, 2017.2.

2016年11月5日京大で開催された第30回総会時のシンポジウム「肉用牛肥育におけるコストダウンと品質向上:肥育期間、飼料内容を考える」は4題の講演と総合討論です。今回は情報量が多く、演者とタイトルだけ掲載します。趣旨はわが国肉牛生産に大きなコストを占める飼料について副産物飼料資源や粗飼料多給や飼料米の活用事例などと和牛生産現場からみた肉質の今後の展望です。

- (1) 肉牛生産における地場産飼料資源の利用-近畿地方の事例と研究成果 (熊谷 元:京大)
- (2) 長崎県における前期粗飼料多給による肥育期間の短縮の取り組み (岩永安史:長崎農技開校)
- (3) 飼料米を活用した京都版地域資源循環ビジネスモデルの提案 (藤井清和:京都府農水技セ)
- (4) 和牛肥育の展望 (松田武昭:K.K. Special Food J)

### 2. 2017.3 産肉研究会第19回学術集会(神戸大)「放牧牛とその活用の再発見」

集会は3セッションで1) 農家の声:放牧畜産の現状と課題、2)肉を売る

側からの視座:放牧牛と健康と飲食産業、3)放牧畜産は果たして経営が成り立つのか?:一孝/で5題の講演です。

1. 独自化で届ける放牧敬産牛肉(田中一馬:田中畜産)
2. 離島における放牧畜産の挑戦と挫折(山地竜馬:繁殖農家)
3. 飲食店が食材として求める牛肉は? 牧草牛は飲食店の救世主になるか? (竹野 孔:(株)タケノ)
4. 飲食業の新たな展開:トレーニング、糖質制限と牧草牛(田浦貴大:(株)一生健康)
5. 金融機関から見た畜産事業者の経営と資金面での課題(小野隆一:チトゥーバグループHD(株))/放牧による牛肉生産の展開には、但馬牛の特性を活かした敬産牛肉の独自化や、牧草牛肉の機能性を健康指向と結合した複合化事業などの工夫、小規模離島での自然利用の課題克服等も重要ですが、動産・債権担保融資を活用する事業計画策定などの積極性が求められています。

### 3. 2017.3.28-30 日本畜産学会122回大会(神戸大,神戸市)

牛講演要旨:大会の総演題数は359、栄養・飼養83、育種・遺伝42題以下畜産物利用、形態・生理の演題数順です。黒毛和種、肉用牛に関する内容または材料にした演題は33題です。解説は次号にします。

### 4. 2017.4.20. 北海道オーガニックビーフ振興協議会設立記念シンポジウム(ホテルグランテラス:帯広市)

基調講演「日本のオーガニックの流れと展望」(徳江倫明:一社フードラストプロジェクト) 家畜の餌は元々有機ですが、オーガニック農業=自然の摂理に沿った農業:自然農業という由来・原点から農業の産業化と共に環境破壊が進んだ反省で脱農薬・化学肥料、非遺伝子組み換えなどの消費者ニーズを刺激する段階です。オリパラで日本食材に日本短角牛・日本アンガス牛肉の認識度向上もさることながら今後、日本での牛肉生産体制の維持と継続が大事です。

## 道総研 畜産試験場NEWS

### 「黒毛和種育成牛への2番草GS主体TMR給与技術」① 全3回シリーズ 道総研 畜産試験場 肉牛グループ 遠藤哲代

